

「おそろしい土しゃさいがい」

さぬき市立石田小学校 4年 中井 俐空 さん

ぼくはまだ土しゃさいがいにあったことがありません。だから、どんなにこわいことなのかも分かりません。土しゃさいがいは何日か前にニュースで見ました。台風やごう雨でたくさん雨がふり、川とかがはんらんして道ろや家に水がたくさん流れてきたり、山の木や岩とも流れていました。土しゃさいがいにあった家の中はどろ水だらけで、すごくひさんなものでした。もしぼくの住んでいる所もこんなことになってしまったらと考えたら家には住めなくなるし、いつも行っていた学校で友達とべんきょうしたり、遊んだりすることもできなくなってしまうので、ぜったいにいやだと思いました。

ぼくはさぬき市で、どこがきけんかを調べてみる事にしました。さぬき市の寒川ししよには、こう水、どしゃさいがいハザードマップと言うものをむりょうでもらえます。そのハザードマップには、さぬき市のしん水しそうな所や、土しゃさいがいがあるかもしれない所が細かくのっています。しん水の危険がある所は、川の近くや、土地の低い所にたっている家で、ひどい所は水が二メートルくらいまでくるかもしれないことが分かりました。どうしてそのような所があぶないか調べてみると、川の近くは雨がたくさんふると、水がふえてしまい、ひどくなると川から水があふれて近くの道ろや家に流れこんでくるのです。

土しゃさいがいについて、しらべてみました。土石流、地すべり、がけくずれなどが土しゃさいがいとよばれています。たくさん雨が山にふり、雨が山の土にしみこんでやわらかくなり、土が動いてしまうことです。山はななめになっているので、スピードをつけてすべっていきます。

ぼくの家近くには、川ではなく、山がまわりにあります。水があふれることはないけれど、土しゃさいがいが起こるかもしれません。土しゃさいがいが起こる前には、がけから小石がおちてきたり、地面にひびがはいったり、木がななめにかたむいたりするそうです。土しゃさいがいは大雨がふったときに起こりやすいです。台風の時には気をつけなければいけません。また、土しゃさいがいけいかいじょうほうが、テレビやラジオ、けいたい電話で知らせてくれるので、早めのひなんをする事が大切です。こう水や土しゃさいがいなどの風水害は、早めにひなんをすることが大切です。雨がすごいいきおいでふり出すと、一時間もしないうちに水があふれてしん水をしたり、土しゃさいがいになったりします。早めにひなんしないと、にげおくれてしまうので、雨のりょうがすごく多い時は、気をつけなさいといけません。

この作文で、土しゃさいがいがどれだけこわいものか分かりました。自然さいがいはいつ起こるか分かりません。テレビでこう水や土しゃさいがいでこわれた家や、なくなった人がいる事を聞いたとき、とてもかなしくなります。そして、こわくなります。今回調べたハザードマップにはきけんな所が細かくのっています。自分がすんでいる所やよく行くところでは、どの辺がきけんかを知っておきさい害が起きた時には、きけんな所からはなれるようにしたり、早めにひなんをするなどして、自分の身を守っていきたくと思います。また、僕の家にはさい害が起こった時に持ちだせるリュックがあります。その中には、水や食べ物、ラジオやかいちゅう電気などが入っています。お母さんは、もし何かあった時にあわててじゅんぴしていたらにげるのが間に合わないから、すぐににげれるようにじゅんぴをしておく事が大切なんだよと話してくれました。学校でもひなんくんれんなどをしていて、本当に火事があった時にすぐににげれるような練習をしています。さい害が起こる前からしっかりとじゅんぴしておく事が大切なんだなと思いました。一つしかない命なので、何かあった時には自分の身を守れるようにいつも気をつけておきたいと思っています。